

市町村名 伊平屋村

平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1 - 海浜公園植栽及び緑化体制整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ
担当部課名	建設課	事業実施(予定)年度 平成24~28年度	観光客の受入体制の整備
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容 村のキャンプ場として位置づけられる米崎海浜公園の利便性、快適性の向上や良好な景観形成に向け、公園内の植栽をおこなうと共に島内の緑化推進に向け、中核となる人材の育成を図り、村民参画による島内緑化推進体制の整備を行う。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	24年度(繰越)	26年度	27年度	27年度(繰越)
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額	25,839	-	16,500	11,500	-
	(b)予算現額	16,239	16,242	8,620	11,460	0
	(c)増減額(b-a)	9,600	3	7,880	40	0
	(d)前年度繰越額	-	16,242	0	0	6,692
	A.計(b+d)	16,239	16,242	8,620	11,460	6,692
	B.執行済額	16,239	16,240	8,532	4,768	6,692
	うち交付金充当額	12,991	12,991	6,825	3,814	5,353
	次年度繰越額	16,239	0	0	6,692	0
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	99.0%	41.6%	100.0%
	予算の状況の説明	事業箇所は、砂嘴で形成された場所であることから、塩害に強い樹木を植栽することとしているが、導入する樹木の苗木の県内ストックが少なく、今年度の予定数量確保が困難となったため、施工量を調整して発注した。また、植栽前に植栽木にあった土壌改良を行う必要があったため、土壌分析に不測の日数を要し、繰越を行い実施完了した。				

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	26年度	27年度	28年度
フクギ等植栽 1,700本程度	目標	(1,842本)	(1,697本)	(1,700本)	()
	実績	1,842本	1,697本	1,331本	
視察研修、植栽実施研修の実施	目標	(-)	(-)	視察研修、植栽実施研修の実施	()
	実績	-	-	視察研修植栽実施研修の実施	
達成状況説明	計画に沿った緑陰機能の回復とあわせ海浜景観の復元ができ、海浜公園の緑陰機能回復に寄与した。今回の施工範囲において、密植し植栽する予定であったが植栽木の成長を考慮し植え穴の間隔を広げたため目標本数であった1,700本を下回ることとなった。また、住民を対象とし景観作りに関する意見交換、島外での土作り及び育苗研修を行い、米崎海浜公園に植栽実習を行うなど住民の意欲高揚に寄与できた。28年度では、島内での実施研修などを行う予定である。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(24年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
			・植栽木の成長により、緑陰機能の回復が図られ、利便性、快適性の向上	()	()	()	()
			緑陰機能の回復、利便性・快適性の向上の実施				
	・村民参画による緑化推進体制の整備	()	()	()	()	()	
			村民参加による緑化推進体制整備の実施				

進捗状況説明 園内の植栽により、木々の生長とともに公園内の防風効果が発揮され、園内利用者の利便性や快適性に大きく寄与できる。また、植栽帯の設置を355㎡行い海浜景観の修景対策をする事ができ、緑陰機能に優れた沖縄らしい風景を創造を回復でき、快適な観光地作りができる。緑化体制の推進においては、島外の緑化活動、苗木圃場の視察、土作り及び苗木の植栽実習を行い中核となる人材育成の研修を行っている。

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>実施範囲がキャンプ場周辺と広大であることから、周囲の植栽を請負にて実施し成長後には防風や緑陰の回復などに大きく寄与できるが、成長の管理を十分に行う必要がある。</p> <p>集落景観や苗木の手入れ等に関し活動を行う者は高齢者や婦人会が多く、集落に中核となる人物を育成し、集落全体に考えや手入れ、景観に関して考えるように浸透させていく必要がある。</p>	<p>植栽した木々が成長するにつれ、周囲を間引きしながら大きくする必要があり、研修等で育苗、植え付け等を実施しているところだが、間引きや移植等実習を行い、今後は村民や施設管理者で行えるようにする。</p> <p>集落の中核となる者として若者が少なく、青年会や子ども会等の団体に呼びかけ活動を行えるようにする。</p>

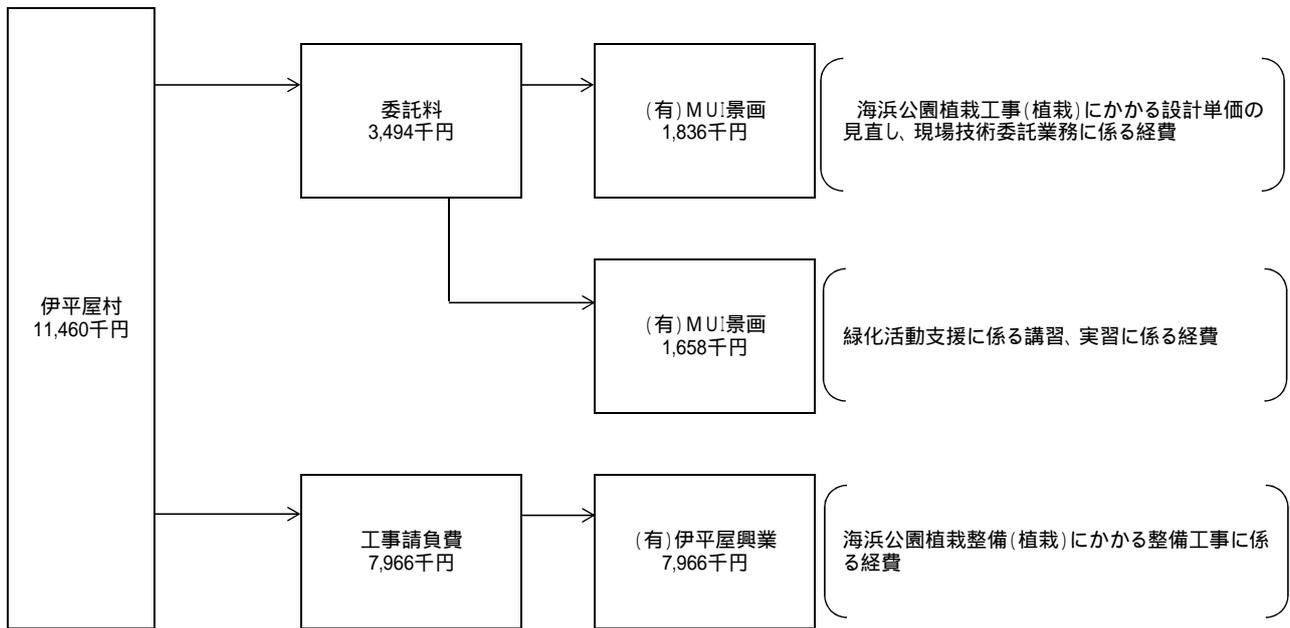
今後の取り組み方針

公園周囲の植栽の実施し、風等の対策を行い、園内の緑陰機能を回復させるための植栽を実施してきた。植栽木の成長を補助するために間隔を狭くし、密植しているが成長するにつれて大きくなるため間引きや移植等の実践研修を行いながら、より効果を発揮するような生育の管理を行っていく。

公園管理者及び管轄課、住民等の協力により植栽や生育管理を行い、快適性及び利便性が高い公園を目指す。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
11,460	11,460	9,168	2,292	0



資金の流れ、費目・用途の点検	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託、請負ともに指名競争入札により発注を行った。</p> <p>○予算規模については、見積により最低価格を設計額とし入札を行った。工事では委託業務による工事単価の見直しを行い、積算物価資料等を活用し積算したことから適正であったと考える。</p> <p>費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について完成時の支出等に関する書類の検査確認をし、適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名 伊平屋村

平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	2-	輪作・転作等促進農業用排水施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-カ
担当部課名	農林水産課	事業実施(予定)年度	平成25~27年度	亜熱帯・島しょ性に適合した農林水産業の基盤整備
			沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(6)

事業内容 台風等の風害により、減少した水稻2期作農家を支援するため、輪作・転作が可能な水田排水施設の整備をする。この地区を農業モデルほ場とし若者等の参入を図ると共に農業生産性の向上を図る。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	3,000	1,700	20,000		
	(b)予算現額	2,679	1,620	24,824		
	(c)増減額(b-a)	321	80	4,824		
	(d)繰越額	-	-	-	7,464	
	A.計(b+d)	2,679	1,620	24,824	7,464	
	B.執行済額	2,679	1,620	17,360	7,464	
	うち交付金充当額	2,143	1,296	13,888	5,971	
	次年度繰越額	0	0	7,464	0	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	69.9%	100.0%	
予算の状況の説明	当初、施工箇所を1haで予定していたが、ファース(地下灌漑システム)が部分的な施工が出来ず整備面積を1.6haに変更したため、4,824千円増額となった。又、施工箇所周辺海域においても養殖漁場があり、ほ場からの排水がもずくの品質及び生育に影響がある為、収穫及び植付期間の工事中断の要望があった。直ちに施行検討を行い、汚濁防止膜等の設置による対策を行ったが、微量ながら水質に影響があるとの意見があり、やむなく工事を中断することになり、不測の日数を要したため、工事費にかかる7,464千円を28年度に繰越した。					

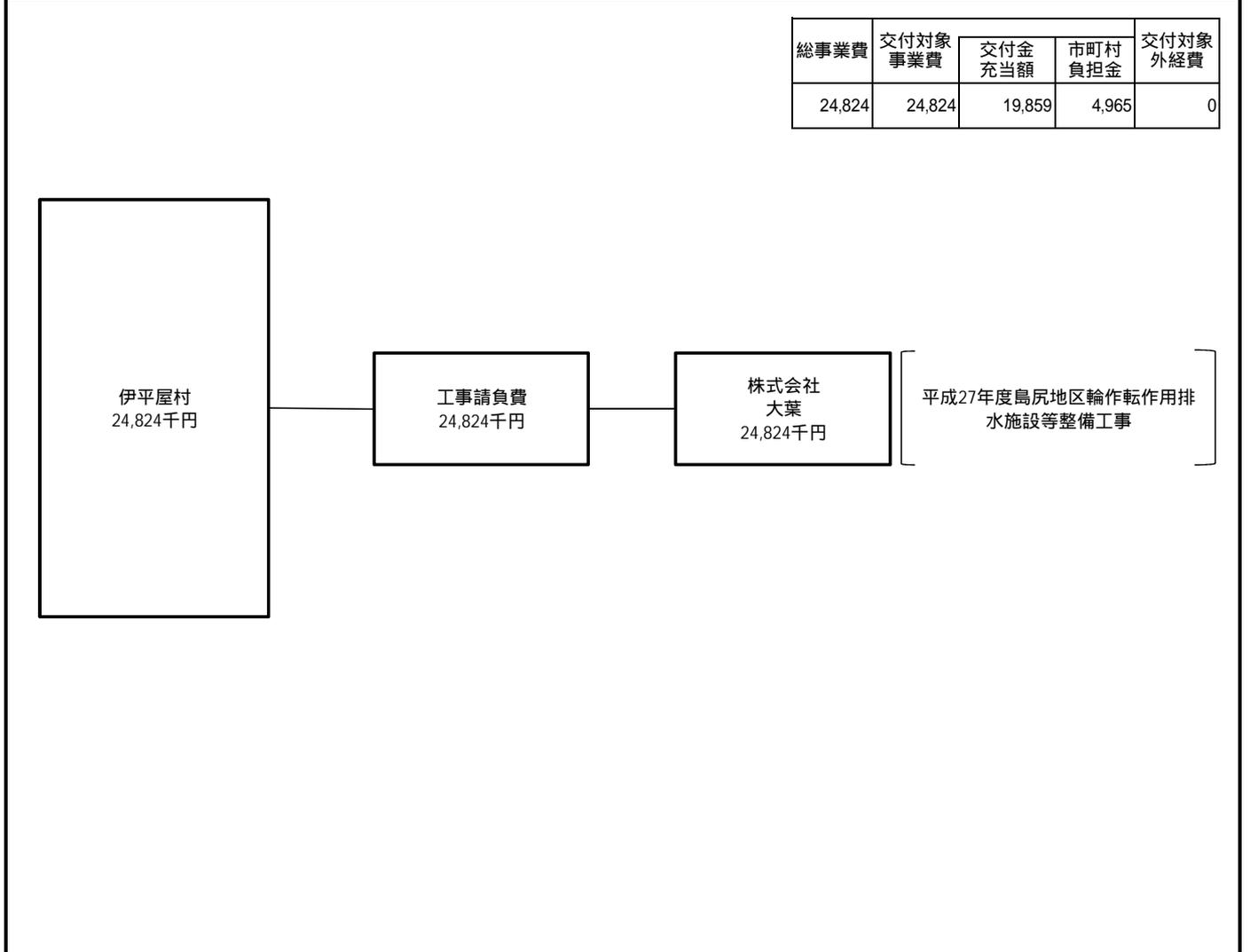
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		25年度	26年度	27年度	28年度
		水田の輪作・転作対応工事設計	目標 (策定業務完了)	(実施設計完了)	(実施設計完了)
	実績	策定業務完了	実施設計完了	実施設計完了	
	水田の輪作・転作対応配水工事(1ha)	目標 ()	()	(排水施設工事(1ha))	
	実績			排水施設工事(1.6ha)	
達成状況説明	輪作・転作対応配水工事については当初予定1haであったが、施工上、部分的な施工が困難であるため、1.6haの整備を行った。				

成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(27年度)	26年度	27年度	27年度(繰)	目標値(年度)	
		輪作・転作に対応できる基盤整備の完了	目標 ()	(実施設計)	(排水施設工事(1.6ha))	(排水施設工事(1ha))	()
			実績		実施設計	排水施設工事(1.2ha)	排水施設工事(1.6ha)完了
			目標 ()	()	()	()	()
	実績						
進捗状況説明	これまでは水田の排水性の悪さから水稻収穫後の他品目の生産が出来ず、水稻次期作まで休耕となる状況にあったが、本事業により、平成28年7月に整備が完了し、排水性の向上及び給水システムの導入により給水も容易になり、整備完了後はカボチャ、さとうきび等の園芸品目が生産されるようになったことで、年を通しての生産が可能となり、農家所得の向上に寄与している。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・本工事完了に伴い、輪作及び転作が可能となり、生産性の向上及び農家所得の向上が見込まれるが、水稲一期作後の後作の品目を栽培期間が長い作物にしてしまうと、次期水稲一期作植付時期に間に合わず、収穫の遅れによる台風被害等の影響を及ぼしてしまう恐れがある為、営農計画の作成が必要である。 ・給水が容易に行えるようになったが、水源の絶対量は増加しないため、適切な水管理における水供給が必要である。 ・農村集落である本村にとって、農家高齢化及び担い手の不足が課題となっている中、若者等の参入を図るため、参入しやすい環境づくり及び農家単位で考えるのではなく、地域として考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産農家との協議の場を持ち、営農計画を定め、中長期的に可能な生産体制の構築を図る。 ・ほ場への給水が容易になったことにより、水の掛け流しによる溜池の濁水の恐れがあるため、地域全体を鑑みた水管理の必要がある。 ・近年の農家高齢化及び担い手不足に歯止めをかけるため、集落営農組織の立ち上げ等による個人農家単位での営農を集落単位での営農に切り替え、地域として生産を考え、担い手が参入しやすい環境づくりの構築及び体制の強化が必要である。

今後の取り組み方針
<ul style="list-style-type: none"> ・個々の農家の生産技術を及び知識を話し合う体制構築に向け、月1回程度の生産農家との協議の場を設ける。 ・地域に水管理担当者を置き、溜池等の水量の把握及び掛け流し等による給水過量防止に取り組む。 ・集落営農組織の立ち上げに向け、集落としての話し合いの場を定期的に設け、農家高齢化による離農に伴う後継者選定及び担い手となる若者への農業3K(きつい・汚い・臭い)払拭に向けた情報発信等に取り組む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目、使途の点検評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	支出先の選定方法については、指名競争入札により決定しているため、妥当である。 予算規模については、沖縄県土木工事積算基準及び実施単価等に基づき積算したものであるため適正であると判断した。 費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名 伊平屋村

平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4 - 伊平屋村火葬場機能強化事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-(ア)
担当部課名	住民課	事業実施(予定)年度 平成26~28年度	健康福祉セーフティネットの充実
		沖縄振興基本方針該当箇所	- 9

事業内容 本村の火葬場は整備後24年が経過し老朽化が進んでおり、斎場としてのスペースが無く、トイレ・待合室などもバリアフリーとなっていない。そのため、葬儀に係る住民負担の軽減と定住条件の向上に向け、火葬場の機能強化の為に改修及び増築を行う。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度
		(a)当初予算額	25,000	69,003		
(b)予算現額	26,162	85,691				
(c)増減額(b-a)	1,162	16,688				
(d)繰越額	-	0	50,008			
A.計(b+d)	26,162	85,691	50,008			
B.執行済額	19,642	35,683	50,008			
うち交付金充当額	15,712	28,546	40,007			
次年度繰越額	0	50,008	0			
執行率(%) (B/A)	75.1%	41.6%	100.0%			
予算の状況の説明	予算の増額理由は、資材単価、労務費単価等の見直しを行ったためである。繰越理由は、既設単独浄化槽(15人)を利用する計画であったが保健所の許可が得られず、設計の見直しが必要となったため。また、次年度予定していた工事を追加した事に伴い、工事発注に大幅に遅れが生じたためである。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況				
		27年度	28年度	29年度	30年度	
	葬斎場建築工事管理業務委託 葬斎場建築工事(祭事スペースの建築) A=161.50㎡ 備品購入 一式	目標 () () () ()	監理業務、建築(工事、物品購入)の実施			
		実績 監理業務、建築工事、物品購入の実施				
	目標 () () () ()					
	実績					
達成状況説明	既設浄化槽(単独浄化槽・15人槽)を撤去し、新設で合併処理浄化槽(35人槽)の設置を実施をした。葬斎場の建築工事、葬斎場備品、霊柩車の整備を行った。					

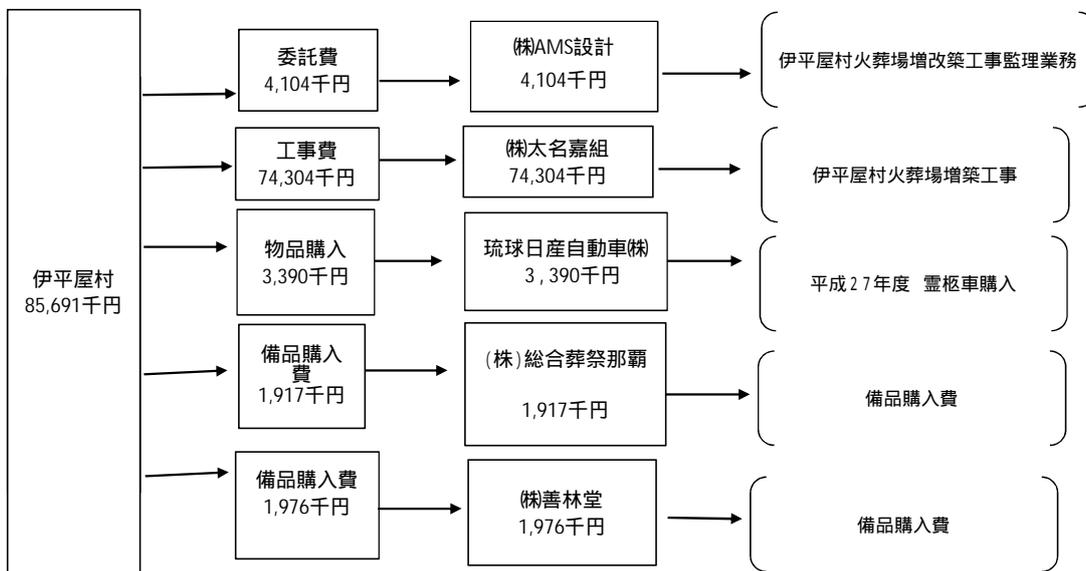
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)	
		葬祭場建築工事管理業務委託の完了 葬祭場建築工事の完了 備品一式の購入完了	() () () ()	管理業務、建築工事、物品購入の完了			
				管理業務、建築工事、物品購入の完了			
		目標 () () () ()					
進捗状況説明	平成28年5月末で葬斎場の整備が完了し、平成28年6月末から供用が開始され、地域住民の葬儀に係るサービス向上及び親族の負担軽減に繋がっている。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	平成26年度は老朽化した火葬炉の改修を行い、平成27年度は火葬場に葬斎スペースがないため葬斎場の建築を実施し、平成28年度は火葬場の機能強化として施設のバリアフリー化を行った。今後は施設の維持管理及び葬斎等の運営を民間業者へ委託し更なる住民サービスの向上へ向け指導していく。	民間業者の雇用機会の確保・サービスの向上が期待出来る施設及び管理体制が整ったことにより更なる火葬・葬儀に係る住民サービスの向上を図り、定住促進へ繋げる。

施設の維持管理・葬儀の進行等・霊柩車運転を民間委託し、火葬・葬儀に係る住民負担の軽減を行い、更なる住民サービスの向上を図っていき、定住促進に繋げていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
85,691	85,691	68,553	17,138	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	○委託業者及び工事請負業者は指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、事業計画の変更に伴い分離発注を行い、再度積算したため、当初額より増額となった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・用途は事業目的にのみ限定したことから妥当であったと考える。(検査の実施)
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	伊平屋村
------	------

平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	4 - 伊平屋村スポーツコンベンション拠点施設整備事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ア
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成26~27年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	国際的な沖縄観光ブランドの確立
			- 9

事業内容
 市民の健康増進や生涯スポーツの拠点のみならず、ムーンライトマラソンのメイン会場や県内アマチュア団体の合宿、各プロスポーツ団体との交流イベント、講習会の開催場所として活用している友愛と健康の広場を本村のスポーツコンベンション推進拠点施設と位置づけ、さらに取り組みを強化するため、施設の機能強化を行う。

実施方法
 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況					
	(a)当初予算額	50,000	517,879			
	(b)予算現額	57,000	571,547			
	(c)増減額(b-a)	7,000	53,668			
	(d)繰越額		-	439,036		
	A.計(b+d)	57,000	571,547	439,036		
	B.執行済額	57,000	132,511	427,672		
	うち交付金充当額	45,600	106,619	342,137		
	次年度繰越額	0	439,036			
	執行率(%) (B/A)	100.0%	23.2%	97.4%		
予算の状況の説明	当初計画より資材費及び労務費単価等の上昇により、実施内容を見直したことから、予算額を53,668千円増額した。また、当該施設で開催するマラソンイベントの関係者との協議において、施工時期・施工方法、仮設等の調整に不測の日数を要したため、工事費にかかる439,036千円を28年度に繰越した。しかしながら建築工事における入札不調により、さらに整備方針を見直したことから、不用額が11,364千円となった。					

活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)	達成状況			
		26年度	27年度	28年度	29年度
・磁気探査の実施 ・照明施設改修工事の実施 ・グラウンド等改修工事の実施 ・附帯施設整備工事の実施 ・外構改修工事の実施	目標	(実施設計の実施)	(工事、附帯施設整備工事、外構改修工事の実施)	()	()
	実績	実施設計の完了	磁気探査、照明施設改修、グラウンド等改修工事、附帯施設整備工事、外構改修工事の完了		
達成状況説明	平成26年度に実施設計を実施し、平成27年度に磁気探査、照明施設改修、グラウンド等改修工事、附帯施設整備工事、外構改修工事を実施した。				

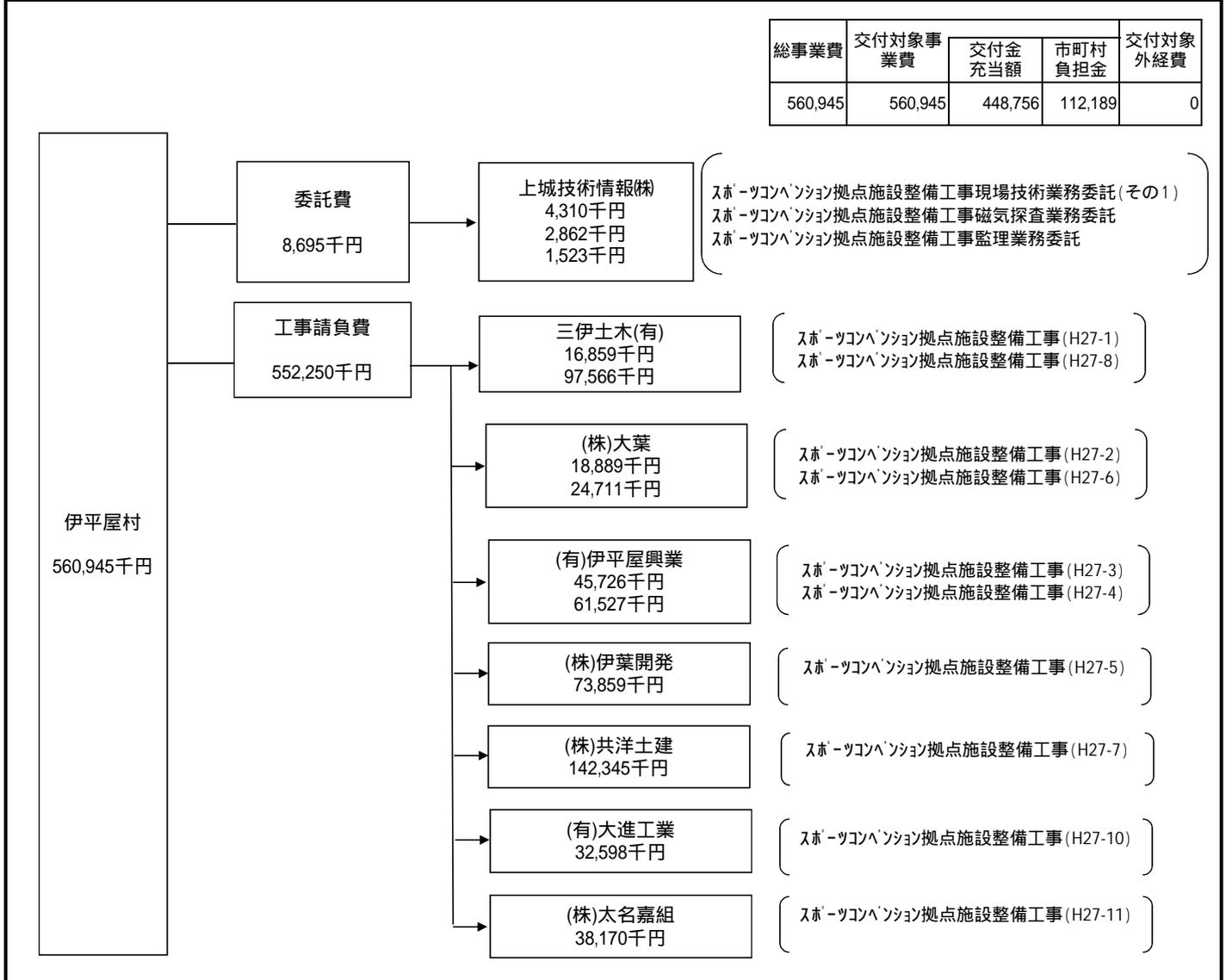
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)	基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値(年度)
		・磁気探査の完了 ・照明施設改修工事の完了 ・グラウンド等改修工事の完了 ・附帯施設整備工事の完了 ・外構改修工事の完了	目標	()	(磁気探査、照明施設改修、グラウンド等改修工事、附帯施設整備工事、外構改修工事の実施)	()
進捗状況説明	実績		磁気探査、照明施設改修、グラウンド等改修工事、附帯施設整備工事、外構改修工事の完了			
	平成29年度3月末で整備が完了し、平成29年4月から供用が開始され、地域住民の健康増進、スポーツコンベンションの拠点として運営されている。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>本村唯一の総合運動施設である友愛と健康の広場を、本村のスポーツコンベンション推進拠点施設と位置づけ、さらに取り組みを強化するため、施設の機能強化を行った。</p> <p>スポーツコンベンション拠点施設の整備については、建築工事における入札不調により、整備方針を見直し、グラウンドや多目的広場の安全性や利便性をさらに高める整備を実施したが、シャワー施設、トレーニング施設に関しては後年度実施することとした。</p> <p>また、当該施設で開催するマラソンイベントの関係者との協議において、施工時期・施工方法、仮設等の調整に不測の日数を要したため、28年度に繰越して事業を実施した。</p> <p>施設の完成によりイベント時の運営や施設機能の安全性、利便性が大幅に向上したことから、今後この施設の活用に向け、島内外のスポーツ競技団体との連携強化や情報共有を行い、新たなスポーツイベントの開催や合宿誘致に力を入れる必要がある。</p>	<p>当初計画より工期が大幅に送れてしまったが、今後、事業実施に際しては事業関係者とこれまで以上に緊密に意思疎通を図るとともに、不測の事故が発生しても契約期間の延長がないよう余裕を持った工期設定を行いたい。</p> <p>グラウンドや多目的広場については施設機能が大幅に強化され、異種目の競技が同時に行えるようなスペースも確保出来たが、シャワー室やトレーニング室等、合宿誘致に向けた、更なる魅力向上を図るための附帯施設を整備する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

平成29年4月に供用開始しており、翌月には、北部広域圏、与論町や和泊町を含めた奄美郡島も参加する駅伝大会を実施した。また、隣接する村民体育館の活用も含めたサッカーやバレーボール等の強化合宿も開催されていることから、今後は島外のスポーツ競技団体や、郡体協、県体協等との連携体制もさらに強化し、本村のスポーツコンベンション拠点施設として運営していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託及び工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 予算規模については予測困難な建築工事の入札不調により、整備計画を見直したものの11,364千円が不用額となった。 費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	